

第4回公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時 : 2017年4月18日(火) 10時～12時

場所 : 町田市役所 市民協働おうえんルーム

出席者: 委員長 市川宏雄氏

副委員長 山重慎二氏

委員 神山和美氏(欠席)

前島正光氏

岩崎俊男氏(欠席)

大塚信彰氏

小林祐士氏

通地康弘氏

大倉博志氏

増山正子氏

長谷川隆氏

1. 開会、事務局連絡

- ・長谷川委員紹介
- ・傍聴者0名

2. 事務局説明

- ・これまでの振り返り
- ・2017年度のスケジュールについて
- ・市民意見募集、市民説明会の実施
- ・建物の健全性調査の実施

3. 議論

委員:

市民説明会は6会場なのか、10会場となったのか。

事務局:

10会場。

委員:

市民説明会のときに、どの施設を廃止するといった具体的な内容が出るのか。

事務局：

前期の市民説明会では、前提となる町田市状況、計画の概要について、再編後の将来像等を説明した上で、代表的な身近な施設機能については、短・中・長期的な取り組みについて例を挙げて説明することを考えている。

委員：

9年間のプログラムでは具体的なものとなると思うが。

事務局：

すぐに特定の施設を廃止するというように明記するものはあまり想定していない。9年間については計画的な大規模修繕や長寿命化の実施が多くなると思うが、その中でも中期の実施に向けた廃止や集約の検討といった文言は入ってくるので説明の必要はある。

委員長：

いきなり結論を出すことはない。市民説明会は選択肢を示しながら、会話をしていく場である。市民の理解が進むことでこの施設は廃止することが妥当だと納得するようになればいい。

委員：

市民説明会はいろいろな場所で行うのか。

事務局：

都市計画マスタープランで分けている10の地域を考えているが、説明は地域ごとに変わるのではなく、どの回も同じ内容である。

委員：

健全性調査の結果が判明するのが8月ということだが、6月の説明会では市民にどう説明するのか。

事務局：

今回の調査は、建築後50年程経過したものを対象としており、再編計画を立てていく中で、長寿命化が可能か、建替えが必要となるかといったものを判断するためのものである。

委員：

健全性調査の 18 施設はもう決まっているようだが、その基準は？

事務局：

阪神大震災の後に建物耐震診断を行った際のデータ等を踏まえて選んでいる。第 1 期の 9 年間に長寿命化すべきかの判断を迫られる建物を対象としている。

委員：

老朽化している施設ということか。

事務局：

基本的に古い建物から対象としているが、耐震診断データより長寿命化は難しいと判断できる施設は対象から外し、それ以外の施設を対象としている。

委員長：

次の議題をお願いします。

事務局：

施設機能ごとの実態課題と今後の方向性について説明。資料の構成等。

委員長：

取り組みの前にこの施設をどうするかといった理念があり、それを実施する順番が短・中・長期の取り組みとなるのでは？

事務局：

建物については、拠点となる建物を残していくという考えを示している。

委員長：

拠点に関する考え方を昨年度決めたが、具体的に考えると、財政面等いろいろな要素がある。財政面の制限を念頭に置くのか、一旦財政面のことは考慮しないのか。

事務局：

更新費の時期については、第 2 期に学校の建替えが大量に生じることが分かっている。再編の計画では財政面についても考慮し、建物を減らしていくとどうなるかを金額も含めシミュレーションしていく。

委員長：

行政経営改革プランの内容は重要。短期段階では財政面から順番をつける必要がある。

事務局：

再編計画としての取り組みについては、短期・中期のものが多い。これは、建替えの時期の到来は中期が多いため、それを見据えて計画的に実施するために、短期の取り組みを落としている。サービスの見直しと公共施設の建物の情報を組み合わせて、プログラムを作り込んでいく。

委員：

町田をどうしていくかという話がない。都市核・副次核をどうしていくかの話が必要ではないか。

委員長：

拠点性の定義が曖昧となっているが、全体の流れの中で説明していく必要がある。それが理解されれば、話は理解される。いきなり複合化といった話をすると特定施設の個別テーマになってしまう。

委員：

複合化をしていく場合、何を中心として考えていくのか。地域なのか。

委員：

市民説明会はどれぐらいの時間を想定しているのか。

事務局：

2時間ほど。

委員：

2時間では一方的に説明し、それに対して改めてアンケートをとる形式になる。今の話は建物ありきで進んでいるが、市民としては行政の考え方をまず聞きたい。行政としてはまずお金がないということを言うべきではないか。その中で公共施設については、市民からすると、省庁がどういう動きをするのか、複合化の核となる施設とは何か、小中学校にフォーカスしたいという意図があるのではないかと、今までの施設は基本的に縦割りだが、運営面はどうするのか、市民にとっていい状態になるのかといったことを市民としては聞きたいのではないかと。それに対して、どのように説明するか考えると2時間では時間がない。コミュニケ

ーションの場合、小中学校、など、対象の施設をフォーカスして説明する必要がある。

10 会場で行うということだが、地域特性をどう反映するか。住民にとっては自分の地域がどうなるかにフォーカスされる。地域特性に対して、基本感をどう説明するか。

委員：

市民説明会は今日の議題ではない、市民意見の募集が重要。そのためにどういう資料を出すか。説明会は今後何回も行う必要が生じる場合もある。

副委員長：

取り組みについて、最初の9年間で検討するというのが多いが、一方で障がい者福祉施設の記述の中に、グループホームは建て替えない、といった明記がされている。具体的に施設をどうすると記載されているものは市の計画があって書かれているのか、これの是非を検討すべきなのかといった情報を提供していただく必要がある。このように明確に記載できるのであれば、他の施設についても明確に書いた方が良いかと思う。

もう一つ、建物と機能に分けるのは良いが、機能が最終的にどうなるのかが市民に伝わらない。例えば学校を中心に多機能化を進めるといった、そのようなビジョンを示す必要がある。全体像を示すことが市民の理解につながる。

事務局：

短期の取り組みについては9年間の期間になっているが、この後作成するプログラムの中で明確化していく。

行政経営改革プランの対象のものは5年間でやることが決められている。その他のものは今回短期の方向性を示した上で、9年間の具体的なプログラムを作成していくことを考えている。建物は建て替えないというように書いてあるものについては、単独の小規模施設などで、拠点とならないこともありはっきり書いている。機能の移転についても記載している。全体のイメージは示していきたい。市民への説明の仕方も検討していきたい。

委員：

町田市の考える将来イメージの中で、複合化、集約化が必要だが、今後の状況の変化に対応して再編プラン自体を変更することは構わない。

委員長：

スケジュールでは6月中旬から市民説明会、アンケート、意見募集を同時に行うことになっているが、市民から何を聞きたいのか、どんな反応を知りたいのか。

事務局：

まずは公共施設再編が必要だという現状を市民の方にもご理解いただく要素が大きい。今の段階では個別の施設の具体的な方向性というよりも、大枠として将来の形がどうなるのか。それについて理解が得られるかどうか。市民感覚としてどういう点に気をつければよいかの意見を聞きたい。

委員長：

今後の方向性は具体的に記載されているものと、何も決まっていないものもある。前期の市民説明は、複合化等の合意を図るための第一回戦である。ここでどういう意見がでるか、どの程度の反応があるかを知る必要がある。行政経営改革プランでは市民説明会を行っていない。複合化等を進めていく大きな流れに市民を乗せられるかが重要。可能であれば個別の例はいくつか出してもよいと思うが、全体の理解が進む前に個別施設のあり方で大きな反対を受けられないような差し障りのないものがよい。

委員：

このテーマは重いので、慎重に行っていく必要がある。まず市の考え方を理解してもらうことが第一。初回は具体的な施設は出さないでもよい。例えばこの地域のコミュニティセンターをどうするのか、といった質問が出たとしても答えない方がよい。全体の方針に対して、市民がどういう感覚を持っているかを聞く場ではないか。

委員：

市として短期・中期・長期にどうしていくか。

委員長：

まだあまり決まっていない。後々か行政改革プランの方で考えていく。

委員：

5月16日の委員会で市民意見募集案を確定するとあるが。

委員長：

冒頭から紛糾させる必要はない。何かあることを市民に分かってもらう。財政が大変だということを市民は認知しているのか。

事務局：

基本計画の際も知らせているが、一般的な市民感覚としてきちんと浸透しているかという

とわからない。

委員長：

財政面から説明に入っていく必要がある。市民説明会となると利害関係者の方が来るので基本的に反対意見が多くなるのではないかな。その反応も含めて市民に広報する。

事務局：

全体的な方針は基本計画で定めた内容で示していく。複合化、多機能化ということを基本計画で示しているが、今回の再編計画では、これからのより良いかたちに向けてその方法をどう使うのかという一歩進んだイメージを出していきたい。

委員長：

多用途、多世代、多目的といったキーワードは心に残る。複合化などの、具体的なパターンやイメージを示すのは必要。学校の複合化というイメージに対して、市民の反応をみるといったことが今回の市民説明会ではないか。個別施設は出さないが、いくつかイメージを出す必要がある。まずはイメージを投げかけ、学校関係者等に何が嫌なのかを聞く。重要なのはアナウンスメントを行うこと。そのあとは徐々に合意を図っていく。

委員：

国際工芸美術館等に何億かかっていると市民は HP をみてわかっている。

委員長：

そのような個別の事業に関する質問が出ても再編の事務局は答えられないので、考えておく必要がある。

委員：

この計画を出す意味合いをきちんと説明する必要がある。町田市は将来このようになる、お金がない中で、このような策を考えていると書く。個別の施設のことは書いても 10 人違った意見となるので、考え方を示す。今話があったように、財源がないとした場合、美術館に使っているではないか等といった意見は出てくることは想定しておく必要はある。

委員長：

行政経営改革プランの前提条件はなにか。

経営改革室：

人口減少と高齢化が一つ。それから生産年齢人口の減少による市税収入の減少、老年人口の増加による社会保障費が増えることで財政が厳しくなること。それと公共施設の老朽化の3つ。

委員長：

スポーツになぜお金を使うのか、と言われるとどう答えるのか。

事務局：

投資側を担っているものが重点プラン、それを下支えしているものが行政経営改革プラン。節約をするだけが改革プランではなく、サービスを向上していくというものもある。

委員長：

スポーツに重きを置くことは具体的に市の政策として出ているのか。

事務局：

重点事業の選定の考え方について、市として4つのビジョンを示している。重点事業については、4つのビジョンに照らし合わせて分析をし、4つのビジョンの実現に寄与するものを、重点事業を選定している。

委員：

市には自然が多く残っており、自然を生かして、町田を活性化することをかつて検討した。しかし、今回は施設のことだけとなっている。市長が変わると大きく変わり、トップダウンの要素が強い。そのような中で長期的な方向性が示せるのか。

委員長：

市長は市民によって選ばれるので、当然変わってしまうこともある。

委員：

重要なのは基本感をしっかり市民に浸透できるかであるが、今の資料は基本感がはっきり見えてきていない。市民の目線で言うと金がない、といった途端、地域単位の身近な話も出てきてしまう。無駄がない、工夫がされているといった点が説明できれば、市民も理解する。この資料は手法の説明になってしまっている。

委員：

見直しをしなかったら、各地域でこのような施設が使えなくなってしまうといった説明の仕方をしてはどうか。

委員長：

施設には老朽化の対策にかかる費用だけでなく、運営費もかかる。放っておいたら何が起きるかという話をして、複合化すれば改善できるといった話も考えられる。

委員：

このまま放っておいたらこうなる、というのはイメージしやすい。

委員：

コスト、利用人数から利用人数一人当たりコストなども示すとどうか。

委員：

利用人数は現在のものになる。複合化をすると利用人数が増えるかもしれない。市民として思いつくのは庁舎、分室、コミュニティセンターの機能をどうしていくか、地域の核となる小・中学校をどうするかについては、市民に対して言う、言わないは別として議論しておく必要がある。市民から出るのはその3つの施設くらい。博物館などへの意見はあまり出てこない。

委員長：

取り組み時期の考え方についてはどうか。

事務局：

5か年計画で示しているものはその内容を再編計画にリンクさせていく。複合化等は動線やセキュリティも課題となるので、建物の大規模改修や建替えの時期に合わせて行っていく。

委員長：

合意さえあれば時期はいつでもよいのでは。地域や施設の状況を考えて、急ぐことも考えられる。必ずしも建物の時期にこだわらず、理性的に行うのも住民の合意があれば早くできるのでは。施設の老朽化が激しい、コストが高すぎる、利用人数が少なすぎる等、いくつかの施設において、緊急性の視点から取り組みの必要性が明らかなものもあるのでは。

委員：

事務局が言っているのは建物の器としてのタイミング。市民目線では器の中に何を入れるのか、小学校という一つの器が地域としてどう変わってきているか。ニーズの問題もある。

委員長：

学校は相当老朽化が進んでいるので、複合化する前に建替え時期が来てしまうとなると、議論が必要。建替えする以上は複合化するという説明が必要。

事務局：

学校のように中期に建替え時期が来る場合、検討は短期で行っていく。

委員長：

優先順位は必要で、市民の意向に沿って意思決定を急ぐというケースもあるのでは。次回は、市民意見募集の案を議論する。ある程度明確に方針を示して意見を聞くことが必要だが、あまり最初から無用な不安を抱かせるようなものはいけない。

委員：

こういう状況だが、こういう工夫をするので、安心してくださいとすればよい。

委員：

将来の費用を試算してよくないという状態はどこの自治体も同じだが、町田市は早く気がついて、早く新しい仕組みを議論する。どうしてここでやるのか真摯に議論するのが大事。

委員：

どう工夫するかが市町村の知恵である。納得してもらうための説得材料を出すことが優先。そのための基本感が大事である。実際は将来、情勢が変わっていくが、後でその点については説明できれば良い。市民説明会に出て、意見を聞くこともしてみたい。

事務局：

議論いただきありがとうございました。次回の委員会は、5月16日、場所は同じ。

(閉会)